



恩返しをすまで続けたい

かじはら
梶原 沙希さん

4月から豊田自動織機女子ソフトボール部で活躍する市出身の梶原沙希さん(18歳)。「実業団に入ってソフトボールを続けるのは、中学生の時からのでした」と話します。

小学生の時、4歳年上の兄の影響で野球を始めた梶原さん。市内の野球クラブ『ツースリー大府』に所属し、練習を続けてきましたが、「卒業するまで女子は一人でした。周りの男子にレベルの違いや技術で負けることが悔しかったです」と振り返ります。

ソフトボールを始めたのは、中学生の時。「母に連れられて参加した豊田自動織機ソフトボール部とのふれあい会で、社会人になつてからもソフトボールを続ける選手の話聞き、将来のことも考えて、ソフトボールをやりたいと思うようになりました」と話し、より高いレベルを求めて、安城市のソフトボールチーム『トリプルA』に所属します。

高校は三重県の神村学園伊賀に進学し、1年生の時には、県大会で優勝、全国大会へ出場します。初戦で敗退しますが、「コロナで練習が思うようにできない中で、県大会で優勝し、全国大会に出場できたのうれしかったです」と話します。しかし、2年生になると、部員が9人に満たず、

試合ができない状況が続き、「実業団に入るためにもっと試合に出て、力を付けたい」と、鹿児島県の系列校である神村学園に転校することを決断します。転校後は、規定により半年間は公式戦に出ることができませんでしたが、地道に練習を重ね、レギュラーをつかみました。そして、3年生の時に、全国大会出場を果たし、春の選抜大会では3位、夏のインターハイでは5位の成績を取ります。「私たちの代は3年生だけでメンバーを組むことができ、強豪校を相手にベストを尽くせたいと思います」と振り返ります。

つらい練習を乗り越え、ソフトボールを続けてきたのは、「3歳の時から、ラグビーやバスケットボール、陸上を経験させてくれ、送迎や応援を続けてくれた親への感謝の気持ちです。恩返しをするまでは、ソフトボールを続けたい」という思いが強かったからだと話します。

今後は、「先輩たちを全力でサポートし、自分も成長してチームの一員として活躍できるよう頑張りたいです」と努力を続けます。



▲チームメートとのオフショット(左)

